

北九州市教育委員会事務点検・評価報告書（概要）

1 制度概要・目的

【根拠法令等】

- 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条

【目的】

- 教育行政の執行状況を教育委員会自らが事後に検証すること
- 教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たすこと

2 実施方法

- 点検・評価の実施方法、報告書の様式等は、各教育委員会が決定
- 本市においては、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に掲載された事務事業を対象として、策定時に設定した指標などに基づいて有効性などの観点から施策単位で点検・評価を実施。

実施単位	【施策】 「心の育ちの推進」など10施策 【小項目】 各施策の小項目32項目 ※各施策の評価をより具体的・明確にするため、項目の細分化など見直しを実施 【事務事業】 91事業 ※再掲事業、他局所管事業を除く
評価の方法	【施策】 施策を構成する小項目及び事務事業の状況などを踏まえ4段階評価 A 大変順調、B 順調、C やや遅れ、D 遅れ 【小項目】 小項目ごとの指標の状況(実績・成果)、構成事務事業の状況などを踏まえ4段階評価 a 大変順調、b 順調、c やや遅れ、d 遅れ 【事務事業】 事業ごとの指標などを踏まえ、活動状況と成果状況を4段階評価 大変順調、 順調、 やや遅れ、 遅れ

- 学識経験者から点検・評価の結果に対する意見を聴取

- | | |
|---|---------|
| <input type="checkbox"/> 福岡教育大学 教育学部教授 | 坂本 憲明 氏 |
| <input type="checkbox"/> 北九州市立大学 文学部准教授 | 恒吉 紀寿 氏 |
| <input type="checkbox"/> 北九州市 PTA 協議会 母親委員会副委員長 | 清水 藤子 氏 |

【参考】

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律》

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 点検・評価の結果概要

「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に掲載されている教育委員会所管の10施策に沿って、点検・評価を実施した結果、2施策が『大変順調』、8施策が『順調』という結果であった。

施策名・評価結果	実績・成果（評価）の考え方	小項目	評価
施策1 心の育ちの推進 B	「北九州市中学生文化芸術祭」や「シビックプライド講座」、さらに、市立美術館と連携した新たな取組みで、本物の美術作品鑑賞、建築見学、美術館からの市内眺望などの体験をする事業（美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」〔市民文化スポーツ局事業〕）などを通じて、子どもたちのシビックプライド醸成を図った。 いじめについては、「北九州市いじめ防止基本方針」に基づく施策を推進するとともに、「いじめの認知」の判断基準について周知を図り、学校において、いじめを的確に把握し、早期対応を図ることができた。 児童生徒相互の好ましい人間関係づくりのための「北九州子どもつながりプログラム」を全校で実施した。 以上のことなどから、「順調」と判断した。	○道徳教育・体験活動の充実	b
		○シビックプライドの醸成	a
		○人権教育の推進	b
		○規範意識の醸成	b
		○いじめ等問題行動防止対策の充実	b
施策2 確かな学力の向上 B	全国学力・学習状況調査では、小・中学校ともに全国平均正答率をやや下回ったものの、本市平均正答率を全国平均正答率と比較すると、小学校98%、中学校97%で改善傾向にある（前年度 小96%、中96%）。 本市独自の調査である「北九州市学力状況調査」の対象学年・教科を拡充して実施し、児童生徒一人一人の学力をよりきめ細かに把握・分析し、指導の充実・改善を図った。 学力向上推進教員を配置し、「モデル授業」の公開、授業や校内研修への助言等を通して、教員の授業力向上を図るとともに、「子どもひまわり学習塾」を拡充し、小学校100校、中学校62校を対象に実施した。 読書活動の推進については、「新・北九州市子ども読書プラン」に基づく施策を推進するとともに、子ども図書館の設置に向けて改修工事等に着手した。 以上のことなどから、「順調」と判断した。	○学力の向上	b
		○家庭や地域と連携した学習習慣等の定着	b
		○読書活動の推進	b
施策3 健やかな体の育成 B	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、全国平均と同等又は上回っている種目は、小学5年生は8種目のうち、男子5種目、女子5種目、中学2年生では9種目のうち、男子全種目、女子6種目となり、小・中学校男女ともに前年度から大きく改善した。体力合計点も、小学生が男女ともに初めて全国平均を上回るなど、各校の課題に応じた取組みの成果が見られた。 食育については、小学校では、北九州市の農業や学校給食への理解を深めるため、野菜の収穫体験や生産者との交流を持ったほか、中学校では、地産地消をテーマに「学校給食献立レシピコンクール」を開催し、食への興味関心を高めることができた。 以上のことなどから、「順調」と判断した。	○体力の向上	a
		○家庭や地域と連携した運動習慣等の定着	b
		○学校における食育の推進	b
		○家庭・地域と連携した食育の推進	b

【評価基準】 A:大変順調 B:順調 C:やや遅れ D:遅れ a:大変順調 b:順調 c:やや遅れ d:遅れ

施策名・評価結果	実績・成果（評価）の考え方	小項目	評価
施策4 子どもの意欲を高め、特性を伸ばす教育の推進 B	<p>「環境アクティブ・ラーニング」では、施設等での環境体験学習に終わらせず、自ら問題意識をもち、主体的に問題解決するプログラムを実施した。</p> <p>英語教育については、全小中学校に外国語指導助手を配置し、英語を使ったコミュニケーション活動を推進するとともに、新学習指導要領での英語教育の早期化、指導内容の質の向上を見据え、英語教育リーディング指定校4校において指導方法等の工夫・開発などを進めた。これらの取組み等の結果、「英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合」は43.7%となり、前年度から向上し、全国平均も超えた。</p> <p>「幼児教育の推進体制構築事業」において、幼児教育推進員や幼児教育アドバイザーによる、保育所・幼稚園・小学校への訪問、指導・助言のほか、接続カリキュラムの作成などを行った。</p> <p>以上のことなどから、「順調」と判断した。</p>	○北九州市の特性を活かした教育の推進	b
		○英語教育の推進	a
		○幼児教育の充実	b
施策5 特別支援教育の充実 A	<p>特別支援学校と特別支援教育相談センターがそれぞれ役割を分担し、情報共有を行いながら、個々のニーズに応じた具体的な相談支援を行うことができた。</p> <p>小池特別支援学校改築に向けた基本計画を策定するとともに、小倉総合特別支援学校について、総合療育センター移転後の施設を活用した実施設計を行うなど、特別支援教育を行う場の整備を進めた。</p> <p>就労支援コーディネーターによる実習先や就労先の開拓や、北九州中央高等学園に新たに配置した、進路アドバイザーによる実習支援等、就労支援に係る取組みの結果、「高等部卒業生のうち就労希望者の就業率」は97.0%となり、高い水準を維持している。</p> <p>「心のバリアフリー推進事業」として、スポーツや文化・芸術を通して、障害のある子どもと障害のない子どもの交流活動を実施し、お互いを理解し、大切にしている心情や態度を育むことができた。</p> <p>以上のことなどから、「大変順調」と判断した。</p>	○特別支援教育を推進する体制の充実	a
		○教職員の専門性向上と保護者・市民への理解啓発	b
施策6 信頼される学校・園経営の推進 B	<p>教員が子どもと向き合う時間の確保や負担感の軽減を図るため、「学校における業務改善プログラム」に沿った取組みを進めた。</p> <p>顧問教員に代わって、単独で部活動指導や引率等の業務を行う「部活動指導員」を15人配置し、配置した部活動の顧問教員の土日祝日の在校時間が3～5割削減となる等、教員の負担軽減につながった。</p> <p>教員採用試験の受験資格（年齢要件等）の見直しを行い、前年度を上回る志願者を確保することができた。</p> <p>新たに「北九州教師養成みらい塾」を開講し、大学生104名、講師60名が参加するなど、本市教員採用試験の受験の啓発等につながった。</p> <p>教職員用WEBサイト「kitaQせんせいチャンネル」を新たに開設し、「WEB研修動画」や「授業づくり動画」等を提供し、アクセス数は43,305回となるなど、若手教員の資質向上や負担軽減につながった。</p> <p>全小・中学校で、学期に1回以上（年3回以上）の防災避難訓練を行い、災害発生時に主体的に行動し、自らの命を守ることができる思考・判断及び行動力の育成に取り組んだ。</p> <p>以上のことなどから、「順調」と判断した。</p>	○学校における業務改善の推進	b
		○長期欠席（不登校）へのきめ細かな対応	b
		○【再掲】いじめ等問題行動防止対策の充実	b
		○大量退職に伴う教職員の確保や資質の向上	b
		○学校・園の組織力の向上・制度の見直し	b
		○防災・安全教育の推進及び子どもの健康に関する危機管理	a

【評価基準】 A: 大変順調 B: 順調 C: やや遅れ D: 遅れ a: 大変順調 b: 順調 c: やや遅れ d: 遅れ

施策名・評価結果	実績・成果（評価）の考え方	小項目	評価
施策7 教育環境の整備 B	<p>平成 26 年度から取り組んでいるエアコン設置事業については、平成 28 年度夏季までに全中学校の普通教室等への設置工事が完了している。また、国の補正予算も活用して、平成 28 年度から平成 29 年度にかけて小学校 104 校の設置工事を完了した。</p> <p>学校施設老朽化対策については、既存の学校施設を安全で安心な状態で利用できるよう、国の補正予算も活用し、学校の大規模改修工事については、平成 29 年度に5校の改修工事を実施したほか、外壁改修などに着実に取り組んだ。</p> <p>また、学校施設の長寿命化と年度毎の費用の平準化を図るため、平成 30 年 3 月に「北九州市学校施設長寿命化計画」を策定した。</p> <p>以上のことなどから、「順調」と判断した。</p>	○充実した教育活動につながる快適な教育環境の整備	b
		○施設・設備の老朽化対策等、安全な教育環境の整備	b
施策8 家庭における教育・生活習慣づくりの充実 B	<p>家庭教育学級は、全ての市立幼稚園、小、中、特別支援学校で開催したほか、多数の私立幼稚園、私立保育所でも開催した。</p> <p>母子健康手帳の交付時に絵本パックを配布する「はじめての絵本事業」を引き続き実施し、配布率は96.9%となった。</p> <p>児童生徒の家庭における学習習慣の確立、定着を図る「家庭学習チャレンジハンドブック」については、平成 29 年度から資料編と記入編の分冊を行うなど、更なる活用の充実を図り、家庭学習を促進した。</p> <p>以上のことなどから、「順調」と判断した。</p>	○家庭教育支援の充実	b
		○家庭における基本的生活習慣等の定着を図る取組みの推進	b
施策9 地域と連携した学校運営の実現 A	<p>新聞・テレビなどの報道機関に対する、記者発表や資料配布等による情報提供（パブリシティ活動）は、延べ 291 件となり、前年度より増加し、学校や教育に関する話題が、新聞やテレビ等で扱われた件数も 94 件となり、前年度より増加した。</p> <p>スクールヘルパーの延べ活動人数は 110,358 人で、目標人数（12 万人程度）を下回ったものの、引き続き、高い水準で推移しており、安全対策・教育支援などの活動に加え、ブックヘルパーなどの対象校を増やすなど、活動領域拡大につながる取組みを進めた。そのほかにも様々な市民ボランティアと連携しており、「子どもひまわり塾」や「特別支援学校での教材・教具づくり」の拡充など、地域人材との連携を一層進めた。</p> <p>「学校支援地域本部事業」を 52 校から 57 校に拡大して実施するとともに、「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、対象校を全小学校（132 校）に拡大し、出前授業等の 212 事業に取り組み、実施校からはそれぞれ目的に沿った効果が報告され、成果が認められた。</p> <p>以上のことなどから、「大変順調」と判断した。</p>	○学校の情報発信	b
		○家庭、地域等との連携促進	a

【評価基準】 A:大変順調 B:順調 C:やや遅れ D:遅れ、 a:大変順調 b:順調 c:やや遅れ d:遅れ

施策名・評価結果	実績・成果（評価）の考え方	小項目	評価
施策 10 地域における教育活動の充実 B	学校施設開放事業については、地域スポーツの振興及び児童の安全な遊び場として活用されており、また、少年少女の団体スポーツも盛んに行われ、青少年の健全育成に貢献している。	○団体・活動の支援	b
	有害情報から子どもを守る事業として、全校を対象としたインターネット上のサイト等の巡回・監視を実施し、1,028 件の有害情報を発見した。発見した有害情報については、学校に報告するなど適切な対応を行い、早期対応、早期解決に努めた。	○子どもの教育への市民の参画を促す取り組みの推進	b
	SNSや無料通話アプリ等を利用したネットトラブルなどについて、教職員への研修や児童生徒、保護者を対象としたリーフレットの配布などを通し啓発に取り組んだ。 以上のことなどから、「順調」と判断した。	○社会全体で子どもを見守る体制の構築	b

【評価基準】 A:大変順調 B:順調 C:やや遅れ D:遅れ、 a:大変順調 b:順調 c:やや遅れ d:遅れ

4 外部委員の主な意見

□福岡教育大学 教育学部教授 坂本憲明氏による主な意見

【施策3】健やかな体の育成

「北九州市学力・体力向上アクションプラン」に基づく施策が効果的に機能し、全国的にも改善モデルケースになっている。特に、1校1取組、北九っ子体力向上シート、体力アップシートの活用等による児童生徒の意識向上は高く評価される。なお、昨年度から、本市の体力向上は着実に改善傾向にあるが、児童生徒の体力向上に関する自己肯定感と学力向上の相関についても調べていただきたい。今後は、オリ・パラ教育の推進も求められ、さらに創意工夫ある取組みを期待したい。

【施策6】信頼される学校・園経営の推進

学校における業務改善に関しては、平成29年に策定された学校における業務改善に関するプログラムやハンドブックによる組織的な取組みが適切に行われている。勤務実態の全体的な把握とともに教職員への具体的な聞き取りなどの検証をしながら、教職員の勤務状況の改善が図られるよう、業務改善の取組みを進めていただきたい。部活動に対する支援、35人以下学級編制、学校支援講師の配置については、各学校の実態に応じて継続実施・強化が必要である。

□北九州市立大学 文学部准教授 恒吉紀寿氏による主な意見

【施策2】確かな学力の向上

「学力の向上」は、全国平均正答率をやや下回っているものの、改善傾向であり、施策として着実に取り組んでいる。学力定着サポートシステムの活用によって、きめ細やかな指導の充実が図られることを期待する。子どものつまずきの発見から、それをどう理解し、どういう指導を行うのか、といった教員のスキルアップを図ってほしい。これまで、授業改善に取り組んできており、その効果は上がっていると感じる。

【施策7】教育環境の整備

普通教室等へのエアコン整備について、平成30年度までに全ての市立小中学校への設置を完了する予定であり、今年のような猛暑（酷暑）への対応として有用であり、暑さ対策として評価する。

「施設・整備の老朽化対策等、安全な教育環境の整備」は、「北九州市学校施設長寿命化計画」をもとに、国の予算等も活用しながら、早急を実施されていくことを期待する。

□北九州市PTA協議会 母親委員会副委員長 清水藤子氏による主な意見

シビックプライドの醸成に繋がる取組みは大切だと思う。子どもたちの可能性を考えれば、将来、世界や全国で活躍する人材として北九州市を出たとしても、生まれ育った故郷に対して「地元いいなあ」という気持ちや愛着をもってほしい。

携帯やスマホの普及により、家族や友だちと会話をする機会が減ってきているように感じる。携帯やスマホには、無料通話アプリ等でつながって友人を作れるなどの一方で、トラブルの事例もあるなど、良い面も悪い面もある。利用方法について、家庭で子どもに指導することが大切だと考えている。

保護者の立場からすると、学校施設の安全・安心は気になる点である。老朽化した学校施設が多数あるとのことなので、計画的に対策を進めていただきたい。また、通学路の安全確保も重要であるが、各学校で通学路の安全点検をして、子どもたちにも危ない箇所を示してもらっており、非常にありがたい。